

認知機能検査の方法と評価：UCSD 日常生活技能簡易評価尺度(UPSA-B)

テーマ

診断・検査

住吉 チカ 福島大学人間発達文化学類教授

UCSD日常生活技能簡易評価尺度(UPSA-B)は、日常生活技能を評価する検査バッテリーである。金銭管理とコミュニケーションの2つの下位技能からなり、実際の電話や請求書などを用いたロールプレイを評価する。UPSA-Bは認知機能をよく反映し、コ・プライマリバッテリーの測度として有用である。

Key Word

■統合失調症 ■認知機能 ■機能的転帰 ■コ・プライマリ測度 ■遂行能力

はじめに：開発の背景

UCSD日常生活技能簡易評価尺度(UCSD performance-based skills assessment-brief: UPSA-B)は、日常生活技能を測る検査バッテリーである¹⁾。このようにバッテリーが着目されるようになった背景には、コ・プライマリ測度(co-primary measures)の要請がある。コ・プライマリ測度とは、認知機能改善を評価するプライマリ測度(たとえばMATRICSコンセンサス認知機能バッテリー(MCCB)²⁾)と連動して改善する、機能的転帰を測る検査バッテリーや尺度である。理想的には、実際の対人・社交・労働場面での改善がコ・プライマリ測度となることが望まれる。しかし実際には、さまざまな介入変数(ストレスや地域経済など)により、患者の潜在的な遂行能力(functional capacity)が、実際の対人・社交・労働場面で発揮される(functional performance)とは限らない。そのため中間段階として、遂行に基づく日常生活技能の評価が、認知機能と連動して改善するコ・プ

ライマリとして重要視されるようになった(図1)。原版のUPSA(UCSD performance-based skills assessment)³⁾は、コ・プライマリとして優れているが⁴⁾、評価領域が多岐にわたるため(次節参照)簡略版が作成された。

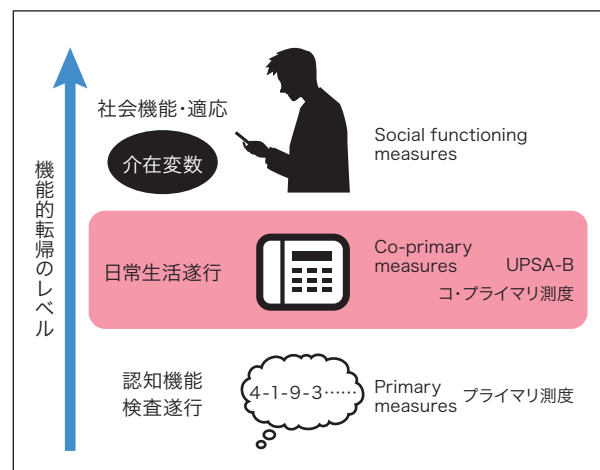


図1 機能的転帰とその測度